

テサロニケ人への後の書

第一章

一パウロ、シルワノ、テモテ、書を我らの父なる神および主イエス・キリストに在るテサロニケ人の教會に贈る。二願はくは父なる神および主イエス・キリストより賜ふ恩恵と平安と汝らに在らんことを。三兄弟よ、われら汝等につきて常に神に感謝せざるを得ず、これ當然の事なり。そは汝らの信仰おほいに加はり、各自みな互の愛を厚くしたればなり。四されば我らは、汝らが忍べる凡ての迫害と患難との中にありて保ちたる忍耐と信仰とを、神の諸教會の間に誇る。五これ神の正しき審判の兆にして、汝らが神の國に相應しき者とならん爲なり。今その御國のために苦難を受く。六汝らに患難を加ふる者に患難をもて報い、患難を受くる汝らに、我らと共に安息をもて報い給ふは、神の正しき事なり。七即ち主イエス・キリストの中にその能力の御使たちと共に天より顯れ、八神を知らぬ者と我らの主イエスの福音に服はぬ者と共に報いをなし給ふとき、九かかる者どもは主の顔とその能力の榮光とを離れて、限りなき滅亡の刑罰を受くべし。一〇その時は主おのが聖徒によりて崇められ、凡ての信する者（もの）なんぢらも我らの證を信したる者なり）によりて讃められんとて來りたまふ日なり。一一これに就きて我ら常に汝らのために祈

るは、我らの神の汝等をして召に適ふ者となし、能力をもて汝らの凡て善に就ける願と信仰の業とを成就せしめ給はんことなり。一二これ我らの神および主イエス・キリストの恵によりて、我らの主イエスの御名の汝らの中に崇められ、又なんぢらも彼に在りて崇められん爲なり。

第二章

一兄弟よ、我らの主イエス・キリストの來り給ふこと、又われらが主の許に集ふことに就きては、汝らに求む。二或は靈により、或は言により、或は我等より出でし如き書により、主の日にすでに来れりとして、容易く心を動かしかつ驚がざらん事を。三誰が如何にすとも、それに欺かるな。その日の前に背教の事あり、不法の人すなはち滅亡の子あらはれざるを得ず、四彼はすべて神と稱ふる者および人の拜む者に逆ひ、此等よりも己を高くし、遂に神の聖所に坐し己を神として見する者なり。五われ汝らと共に在りし時、これらの事を告げしを汝ら憶えぬか。六彼をして己が時に至りて顯れしめんために、彼を阻めざる者を汝らは知る。七不法の秘密は既に働けり、然れど此はただ阻めざる者の除かるまでなり。八かくて其のとき不法の者あらはれん、而して主イエス御口の氣息をもて彼を殺し、降臨の輝耀をもて彼を亡し給はん。九彼はサタンの活動に従ひて來り、もろもろの虚偽な

る力と徴と不思議と、一〇不義のもろもろの誑惑とを行ひて、亡ぶる者どもに向はん、彼らは眞理を愛する愛を受けずして、救はるることを爲さればなり。二この故に神は、彼らが虚偽を信ぜんために惑をその中に働かせ給ふ。三これ眞理を信ぜず不義を喜ぶ者の、みな審かれん爲なり。四されど主に愛せらるる兄弟よ、われら常に汝等のために神に感謝せざるを得ず。神は御霊によれる潔と眞理に對する信仰とをもて、始より汝らを救に選び、一四また我らの主イエス・キリストの榮光を得させんとて、我らの福音をもて汝らを招き給へばなり。一五されば兄弟よ、堅く立ちて我らの言あるひは書に由りて教へられたる傳を守れ。一六我らの主イエス・キリスト、及び我らを受し恩恵をもて永遠の慰安と善き望とを與へ給ふ我らの父なる神、一七願はくは汝らの心を慰めて、凡ての善き業と言とに堅うし給はんことを。

第三章

一終に言はん、兄弟よ、我らの爲に祈れ、主の言の汝らの中における如く、疾く弘りて崇められん事と、二われらが無法なる惡人より救はれんことを祈れ。そは人みな信仰あるに非ざればなり。三されど神は眞實なれば、汝らを堅うし汝らを護りて、惡しき者より救ひ給はん。四かくて我らの命すること汝らが

今も行ひ、後もまた行はんことを主によりて信するなり。五願はくは主なんぢらの心を、神の愛とキリストの忍耐とに導き給はんことを。六兄弟よ、我らの主イエス・キリストの名によりて汝らに命す、我等より受けし傳に從はずして妄に歩む凡ての兄弟に遠ざかれ。七如何にして我らに效ぶべきかは、汝らの自ら知る所なり。我らは汝らの中にありて妄なる事をせず、八價なしに人のパンを食せず、反つて汝等のうち一人をも累はさざらんために勞と苦難とをもて、夜晝はたらけり。九これは權利なき故にあらず、汝等をして我らに效はしめん爲に、自ら模範となりたるなり。一〇また汝らと偕に在りしとき、人もし働くことを欲せずば食すべからずと命じたりき。二聞く所によれば、汝等のうちに妄に歩みて何の業をもなさず、徒事にたづさはる者ありと。三我ら斯くのごとき人に、靜に業をなして己のパンを食せんことを、我らの主イエス・キリストに由りて命じかつ勸む。四兄弟よ、なんぢら善を行ひて倦むな。一四もし此の書にいへる我らの言に從はぬ者あらば、その人を認めて交ることをすな、彼みづから恥ぢんためなり。一五然れど彼を仇の如くせず、兄弟として訓戒せよ。一六願はくは平和の主、みづから何時にても凡ての事に平和を汝らに與へ給はんことを。願はくは主なんぢら凡ての者と偕に在さん事を。一七我パウロ手づから筆を執りて汝らの安否を問ふ。これ我がすべての書の記章なり。わが書けるものは斯くの如し。一八願はくは我らの主イエス・キリストの

恩恵めぐみなんぢら凡てすべの者ものと偕ともならんことを。